

旅をあきらめない、 夢をあきらめない 車いすで行けるツアーを企画・主催

●クラブツーリズム(株)

急増する利用者 年間約6000人が旅立つ

クラブツーリズム(株)バリアフリー旅行センターは2005年で10年目を迎えた。もとは近畿日本ツーリストの一事業部門であったが、04年5月に独立して別法人となった。高齢者や障害者の施設・団体向けのオーダーメイド旅行と、一般向けに募集する主催旅行の2本柱でサービスを提供している。年間利用者数は一般募集が約2000人、オーダーメイドが約4000人に上る。事業を立ち上げた当初に比べると、利用者数は「10倍以上に増えました」と、同社ライフケアサービス事業部部长・長橋正己氏。

利用者数が増えればスケールメリットができて価格を下げられる。バリアフリーへの理解が広がり、ユニバーサルデザインの施設・設備が増えてきたこともあり、国内はもちろん、海外ツアーの行く先も、ヨーロッパ・アジア・北米・中南米・アフリカ・オセアニアとバラエティに富んだ中から自由に選べる。

カタログから最近のツアーをいくつか抜き出してみると、「キリマンジャロ山が見えるお部屋に宿泊! ケニア8日間」(8月)、「秋のイタリア8日間」(10月)、「ネパール・ヒマラヤ山岳紀行8日間」(12月)など。国内外合わせて年間100件以上のツアーを送り出している。

国内の人気ツアーは、温泉地まで電車で行って、タクシーや送迎バスを併用する湯治プラン

だ。団体旅行だから価格は手ごろで、東北・玉川温泉の3泊ツアーで6万6000円、信州・蓼科温泉に2泊で4万2000円(いずれも食事は朝夕1泊2食つき)など。また、都内のレストランで各国料理を味わうグルメツアー、観劇やお花見交流会などの日帰りプランもあり、「仲間づくりができる」と好評だ。

安心して旅行できる仕組みを作る

参加者の手記もいくつか紹介しよう。

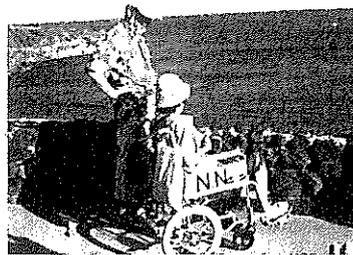
「お2人の添乗員さんの献身的な行動で延暦寺の根本中堂も車いすごと抱えてくださり、不滅の法灯も見る事ができ、感謝しております」(京都大文字五山送り火 夏の京都風物詩3日間)

「介添えの方の努力にはつくづく感心しました。私は現在は杖をつく程度ですが、もっと不自由になってもいろいろなところへ連れて行ってもらえる、と生き甲斐が湧いてきました」(積丹半島と富良野ラベンダー 港町小樽3日間)

「急坂でも私の車いすを押してくださったサポーターさん。そのおかげで上ることをあきらめていた私も美しい風景を満喫することができました」(マッターホルンとスイス探訪8日間)

「車いすで氷河の上に立っていることに健康な人が感じる以上に感動し、年齢を乗り越えて旅行できることに何倍もの幸せを感じています」(ナイアガラの滝とロッキー・花のビクトリアを訪ねて周遊8日間)

高齢者や障害者向けの旅行である
「バリアフリー旅行」を
企画・主催する旅行会社が増えている。
サービスの内容が充実し、利用しやすくなった。
ツアー料金は一般の旅行とあまり変わらない。
別料金で車いすのレンタルや、
有償ボランティアの付き添いも頼める。



写真：クラブツーリズム(株)

企画および添乗を担当するスタッフは、介護福祉士・ホームヘルパー2級・福祉用具専門相談員・福祉住環境コーディネーター2級などの資格を取得している。旅行候補地にユニバーサルデザインの設備が整っていなければ、行政の観光課などにかかけあって、「一緒に知恵を出し合ってサポート体制をつくりましょう」と提案し、専門家を派遣するなどの普及・啓蒙活動も行う。

あるリゾートホテルでは車いすの入れるトイレがなかった。「この壁をとり払って少し広くすれば、必要なときだけ簡易手すりをつけられます」と交渉して問題解決した。

旅にはリハビリの効果がある

もっと多くの人々が気軽に参加できるようにと、「旅をあきらめない、夢をあきらめない」をキャッチフレーズにして、05年3月にハワイでイベントを開催。定例化する計画だ。講師に諏訪中央病院の鎌田實先生を招いての講演会のほか、現地の福祉・介護施設との交流、ハワイらしさの体験イベント（フラダンス・ウクレレ・ビーチアクティビティ）も6日間のツアーの中に盛り込んだ。筋ジストロフィーの52歳の女性でも、サポーターの介助でシュノーケリングを体験できた。

「旅にはリハビリの効果があります」と長橋氏。こんな例があった。脳血管障害の後遺症で片麻痺になり、人目を避けて家に閉じこもって

いた男性が妻の誘いでツアーに参加して以来、見違えるように表情が明るくなり、進んで外出するようになった。また、ある末期がんの患者は国内ツアーに参加して自信をつけ、「次は絶対に海外に行く」と生きる意欲を湧き立たせ、夢を実現させた。

旅には3回の楽しみがあるそうだ。行く前の期待感、旅行中の出会いと感動、旅行後の充足感と次の旅への期待感。このサイクルが、「よりよく生きたい」という動機づけになる。

同社主催のツアー情報は、定期刊行物の「バリアフリー通信」「かわら版」およびホームページで調べることができる。旅行中は専任ボランティアスタッフが付き添い、部屋までの荷物運搬、朝食バイキングのとり分け、空港や駅での荷物の移動などを行う。手動車いすの貸し出しは無料だ。国内旅行では入浴の介助もある。

オプションでの有料サポートは、電動車いすやシャワーチェア、キャリーの貸し出し、自宅から駅・空港までの送迎など。また、「トラベルサポーター」という有償ボランティアの介助を受けることもできる。サポーターは原則としてホームヘルパー1・2級、介護福祉士の有資格者だ。介助の度合いやツアー内容により、料金は国内旅行で1日6000円から。海外旅行は介助者の旅行代金の50%を利用者が負担する。

- ホームページ <http://www.lifecare-s.com>
- TEL 03-5325-6915